1		<b>県営</b>	かんがい排水事業	±0	T村名		7 /ub	nh ver · · · ·		
	一の中星並は ルザーク	_					予市他1	路河川名	箇所名(ふりがな) 安曇野(あずみの)	
計画時の	県営事業も採択され実施に至っている。						起こし、農 よ被害が発	②事業実施に伴う 自然環境・ 生活環境等 の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい) ①生活環境の変化:農地排水のみならず、付随的に住宅地当の排水条件も改善されている。また、整備された水路には、防護柵やガードレール等の安全施設や、一般交通が可能な管理用道路も整備され、地域住民の生活環境の安全性や利便性の確保・向上が図られている。 ②自然環境の変化:国営事業も含めた施設整備には、田園風景に配慮した整備を行っている。	評価 A
									施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価
地区内の排水施設を整備して排水機能の向上を図り、農業生産環境の改善と農業経営の安定と近代化を図る。 国事業と県事業の区分けについては、排水流入面積が末端で概ね500ha以上の路線については国施工とし、県事業は、末端 200ha以上の路線としている。 国営事業におけるあづみ野排水路は、農業用としても重要な路線であるとともに、一級河川万水川の上流部に当たるため、 将来の一級河川指定を見越して、県建設部と国との共同施工としている。また、一級河川天満沢川の下流部や砂防河川鳴沢 別については、農業用排水路としても断面不足が生じていたため、それぞれ、国営路線鳴沢川排水路、国営路線有明排水路							③施設の 維持管理状況	本事業で整備された農業用用排水施設は、用水路の管理者である梓川、新田堰、烏川、矢原堰、有明の各土地 改良区へ、その他排水専用水路については、安曇野市、松本市へ譲与され、管理規程等に基づき適切に管理され ている。 本地区は、異なる管理区域間において、排水路が密接に関連していることから、公平かつ適正に管理を行うた め、安曇野地区広域排水管理規則に基づき、関係土地改良区、行政事務組合(広域排水事業所)から構成される 「安曇野地区広域排水維持管理協議会」を設置している。本協議会は、年に数回ほど担当者会議を開催して、洪水	В	
	として改修を行っている。									6a /ac
									本地区の基幹的排水路を整備した農林水産省が、県営事業も完了している平成26年度に地域住民及び農家を	評価
当初工期	H7~H16 費	用対効果(当初時)	1.0 事業費(千円)		財源内部	尺(千円)		④地域住民等	対象に事後評価アンケートを行っている。(配布1000部、回収509) 農作物への湛水被害については、「少なくなった」かなり少なくなった」と62%が回答している。「以前と変わらない」 と回答した者27%を加えると約8割の評価を得ている。 農地の流動化は、事業実施前に比べて受委託、賃借が変化があったかの問いに54%が「増えた」と回答しており、 農地の流動化の促進が実感されている。	
最終工期	H7~H22 費	用対効果(評価時)	8.1 上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	の評価		
当初計画内容 (主な工種)	排水路	L=25,298m	8,490,000	4,245,000	2,122,500	2,122,000	500			
号終事業実績 (まな工種)	排水路	L=24,511m	7,525,002	3,762,501	1,881,251	1,881,000	250		事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価
業期間の 長、短縮 由と分析	事業期間は当初より6年延長。 - 国党事業の排水が最終的に流えする国党事業の事業期間の延長(最終工期日7~H20)に伴い 事業期間が延長となった							・ ⑤事業の主たる 目的以外で 地域社会への 貢献状況	⑤事業の主たる 目的以外で 地域社会への 地域社会への の人が「軽減された」「かなり軽減された」と回答している。自然環境の変化については、「景観に配慮されている」との回答が73%と評価を得ている	А
事業費(予算)の 増加、縮減 理由と分析							改善措置の必要性	(&U		
事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない) 評価								(1)計画的な整備補修	. 7	
<b>店 校 </b>								今後の取り組み 及び同種事業 への活用と課題	本事業及び基幹事業である国営事業により造成された施設は、今後老朽化等により維持管理費の増加が見込まれるため、機能診断に基づく施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減、適正な更新を行うことが必要。 (2)維持管理 本地区は、雄大な北アルブスに囲まれた美しい田園風景に配慮した整備を行っており、アンケート調査においても高い評価を得ているが、今後も景観と維持管理の両立を図っていくことが必要。 また、都市化の進展により地域住民の混佳化が進み、排水路へのごみの投棄が目立つとの指摘が多くなっていることから、農業水利施設の役割の理解と併せて、美しい景観を守るための啓発活動を行い、地域住民の排水路への理解を深めるていことが必要	
生活安全性の向上 本事業等で基幹的な排水路が整備されたことにより、事業実施後は家屋の浸水被害は生じていない。国が実施した過去に 水害があった集落へのアンケート調査によると、54%の方が「軽減された」「かなり軽減された」と回答しており、家屋の浸水被害 の軽減により生活安全性の向上が実感されている  間接的効果 (定量的・定性的)								本事業は、国営事業を基幹事業としての県営末端受益面積(末端200ha以上)を持つ排水路を整備する事業で、こ場整備事業や中山間総合整備事業、団体営事業を関連事業としており、これらて整備した排水路も機能して湛水被	害、溢水	
							中总元	被害の軽減や区画拡大をすることにより、農業の近代化が図られるものである。事業完了後5か年が経過し、これらの関連事業で終了しているところがあることから、効果発現について農家、地域住民の理解が得られていると思慮される。		
								行政改革課意見	農業用水の安定供給と排水機能の向上が図られ、事業の目的を達成している。	
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	当最 初主 終主 期気と 終主 期気と 教主 関短分析 の 解析 の の の の の の の の の の の の の の の の の	国事業と県事業の区分け 200ma以上の路線としての路線としての路線としての路線におけるから	国事業と県事業の区分けについては、排水流入面 200ha以上の路線としている。 国営事業におけるあづみ野排水路は、農業用と 将来の一級河川指定を見越して、県建設部と国と 川については、農業用排水路としても断面不足が として改修を行っている。	国事業と関事業の区分けについては、排水流入面積が末端で概ね500ha以上の路線としている。国営事業におけるあつみ野排水路は、農業用としても重要な路線であるととも将来の一級河川指定を見越して、県建設部と国との共同施工としている。また、川については、農業用排水路としても断面不足が生じていたため、それぞれ、自として改修を行っている。  当初工期 H7~H16 費用対効果(評価時) 1.0 事業費(千円) 最終工期 H7~H22 費用対効果(評価時) 8.1 上段:当助/下段:最終 初計画内容 排水路 L=25,298m 8.490,000 (季葉)の 東業期間は当初より6年延長。県営事業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期はと分析 事業費は当初より6年延長。県営事業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期はと分析 事業費は当初より964,998千円の減となった。小田多井堰・矢原堰について、31、経滅と分析 事業費は当初より964,998千円の減となった。小田多井堰・矢原堰について、31、20分析 事業費では、計画基準両量(103mm/日)を上回る日両量を記録した上で、31、20分 (予算)の 1、20分 (予算)の 1、20分 (予算)の 2、20分 (予算)の 2、20分 (予算)の 2、20分 (予算)の 2 (予算)の 2 (予算)の 2 (予算)の 2 (予算)の 3 (予算)の	国事業と果事業の区分けについては、排水流入面積が末端で概ね500ha以上の路線についるのか以上の路線とについる。200ha以上の路線としている。200ha以上の路線としても一般可用技を見越して、果建設部と国との共同施工としている。また、一級可用技能としても勝面不足が生じていたため、それぞれ、国営路線鳴がとして改修を行っている。 当初工期 H7~H16 費用対効果(当初時) 1.0 事業費(千円) 最終工期 H7~H22 費用対効果(評価時) 8.1 上京:当前/下段: 200 国庫 排水路 L=25.298m 8.490.000 4.245.000 基立工種 排水路 L=24.511m 7.525.002 3.762.501 事業期間は当初より6年延長、果営事業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に、200 で、200 を表現したが、200 を表現した。 中事業費は当初より964.998千円の減となった。小田多井堰・矢原堰について、現況水路を活発の軽減を図った。 1. 協議 200 を対域を図った。 1. 協議 200 を対域を図った。 200 を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を	国事業と県事業の区分けについては、排水流入面積が末端で概ね500ha以上の路線については国施工200ha以上の路線にしている。、国営事業におけるあづみ野排水路は、農業用としても悪変な路線であるととれに、一般河川万水川の	国事業と興業業の区分けについては、排水流入面積が末端で載ね500ha以上の路線については国施工とし、県事 200m以上の路線としている。 国営事業におけるあうみ野排水路は、農業用としても重要な路線であるとともに、一般河川万水川の上部部に当 川については、農業用排水路としても断面不足が生していたため、それぞれ、国営路線鳴沢川排水路、国営路線本 川については、農業用排水路としても断面不足が生していたため、それぞれ、国営路線鳴沢川排水路、国営路線本 として改修を行っている。  当初工期 H7~H16 費用対効果(当初時) 1.0 事業費(千円) 財源内駅(千円) 最終工期 H7~H22 費用対効果(当初時) 8.1 上段:生助/下段:無料 国庫 その他 県債 お計画内容 おな工程 排水路 L=25.298m 8.490.000 4.245.000 2.122.500 2.122.000 まな工程 排閉の。 振幅 景本業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長 、短縮 県営事業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長 、近路 景本業期間は当初より6年延長 、保営事業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長 、近路 景本業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長 、近路 景本業の排水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長 、近路による所によるに、日本によるにより、事業完了後は、計画基準両量(103mm/日)を上回る日雨量を記録した平成23年9月20日の台風15号 1(112.5mm/日)や、平成25年9月16日の台風16号(33.5mm/日)の豪雨に対しても、地区内で大きた農業をは報告 されたらず、農体の選末が書の解消が唱ったいる。国で実施に過去るに対るからた日集後では報告 されたらず、農体の選末被害の解消が唱ったいる。国で実施に過去るにおるからた日集業をはませ会 されたらず、見体の選末が重めの混水被害の解消が同ったいる。国で実施に過去る農生物の水害防止効果 が表が整備され乾田化が図られたことにより、型は様域の導入が可能となり、小麦の作付面積がH7の370haが 126は707haに増加、そばは、1855aから230haに、ばれいしよが53haから76haにそれぞれ増加している。 (費用対効果分析結果) 事後評別が配金ではまり、事業業施後は家屋の浸水被害は生じていない。国が実施 が発売側におりた。2390年102  生活安全性の向上 本事業等で基幹的なは非水路が整備されたことにより、事業実施後は家屋の浸水被害は生じていない。国が実施	国事業と思事業の区分付については、排水流入面積が末端で概ね5500ng以上の路線については国施工とし、県事業は、末端200m以上の路角としたい。  国営事業におけるあづみ野排水路は、農業用としても重要な路線であるととした、一般河川大海沢川の上流部に当たるため、 別川については、農業用排水路としても断面不足が生していたため、それぞれ、国営路線鳴沢川排水路、国営路線有明排水路として改修を行っている。  基度工期 H7~H16 費用対効果(当初時) 1.0 事業費(千円) 財源内級(千円) 財務財産の銀行の表別に対しており、第4年の14年の 1.03年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14	国事業と供事業の区分付けついては、核水流入面積的大策で概ね300m以上の路線については医施工とし、果事業は、末端 200m以上の路線としている。 国産事業に対るのう外野体が出る。 国産事業に対しるから外野体が出る。 国産事業に対しるから外野体が出る。 国産事業に対しるから外野体が出る。 国産事業に対しるから外野体が出る。 国産事業に対している。これ、一般河川元水川の上流部に当たるため、利川については、農業用油水路として色新菌不定が生じていかため、それぞれ、国営路線場深川特水路、医営路線有明排水路 として破寒を行っている。 最終工期 H7~H16 費用対効果(当初時) 1.0 事業費(干円) 財通内家(干円) 財通内容 最終工期 H7~H12 費用対効果(評価等) 8.1 3年3年47年3年8 国庫 その他 飛銭 一般財源 初計田内容 排水路 L-24.51m 7.525.002 3.782.501 1.881.251 1.881.000 250  「株務 上 24.51m 7.525.002 3.782.501 1.881.251 1.881.000 250  「事業展開は当初より毎年延長、 開放した日本の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長となった。 関期の 上次が 日本の主が、最初がよりを経えた。 国産事業の移水が最終的に流入する国営事業の事業期間の延長(最終工期H7~H20)に伴い、事業期間が延長となった。 関策をよる日うた。 「金藤 201 1.881 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981 2.981	### 2000 200 200 200 200 200 200 200 200